

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500516		
法人名	有限会社サロット		
事業所名	グループホームさくら・ひまわり		
所在地	愛知県尾張旭市柏井町公園通573-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成30年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成30年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

森林公園の近くと緑豊かな環境で、四季を楽しみながら生活しています。馴染みの行事を生活に取り入れ、毎日出来ることを共に行いながら生活しています。
 今年度中旬よりビタミンB1、B12葉酸を取り入れる献立に変更中です。白米から胚芽米に変更するなど、出来ることから始めています。元気に楽しく過ごしていただくために出来ることは何かをスタッフと共に考え、柔軟な対応で取り組めるようにしています。
 例年秋に遠足と称し、外出支援を行って来ていたが、今年度は春に名古屋港水族館、秋に南知多ビーチランド、冬になばなの里のイルミネーションを見に出かけた。「今なら出来ること」「まだできること」にこだわったケアをスタッフと模索しながらケアをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

愛知県森林公園の南側100m程に位置し、公園の森に抱かれ、ホーム自体も木造平屋建てで、1,300㎡の敷地に、延べ床面積560㎡、外周は一部屋根付きウッドデッキとなっており、ゆとりと温もりを与える空間となっている。ホーム自体も竹藪・林に囲まれ、広いリビングの大きな窓には障子が施され、風のそよぎが木々の小枝のさざめきとなって視覚に訴え、野趣あふれる構造となっている。外周のウッドデッキは、一周するだけで下肢筋力維持につながる距離が確保されている。管理者は職員のスキルアップに力を入れ、まず日々の変化を見出す観察力を養い、次に先輩・リーダーに報告する習慣作り、次にそれを言葉に出して他人に伝える能力を養う取り組みをしている。しかし、個々の語彙力には差があり、画一的には言葉に表せないジレンマにハードルを感じている。それをユニットリーダーがうまく職員から聞きだし、フォローしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自	外	項目	自己評価	外部評価
				実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「この街で自然に暮らし笑顔の見られる介護」を理念に掲げ、休憩室に掲示し共有している。ユニット会議などで理念について話し合いをして実践に繋げている。	「この街で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」を理念と定め、職員には研修・日ごろの会話を通じ、そのあるべき姿を常に確認している。管理者は入居者をつぶさに観察するよう指導し、気づいたことは細大漏らさず、リーダー・管理者に報告するよう徹底されている。その結果「入居者を見る目が養われつつある」と感じている。
2	(2)		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時近所の方と挨拶し交流したり、近くの保育園の来訪した運動会に招待もあり交流している。	町内会に加入し、町内の清掃・お祭りにも参加している。元々ホームの畑だったが放置されていたものを、近所の人に請われて貸出し、お裾分けを頂いている。最近の介護記録にも散歩時に近所の畑で「何を作っているのか尋ねたところ、入居者に白菜を二玉頂いた」とあった。認知症サポーター養成講座をホームで開催した。
3			○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の時に「認知症サポーター養成講座」を開催し、地域の方に参加してもらい、理解を深めていただけるようにしている。	
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年5回開催し、ご家族や市の職員に参加していただき、実情や取り組みを伝え意見を伺うようにしている。	家族・薬局職員・市職員・代表・管理者・職員が参加し法定数を満たす開催が確認された。地域代表には参加をお願いしている。昨年の外部評価結果を受けて定めた「目標達成計画」の目的を、メンバーに詳細に説明している。看取りを前提として、救急搬送時にどこまで家族が対応してくれるのかを会議で検討している。家族も4家族ほどが参加している。
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、常日頃より密に連絡を取り合い、協力関係を築いている。	行政窓口は管理者が務めている。尾張旭市には、『事業者連絡会』があり、行政担当者・地域包括職員・各事業者代表が100人程定期的に会合を開き、情報交換・行政からの依頼・広報を確認している。先日も市内であった「還付金詐欺」の注意が市から依頼された。
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のすぐ前が道路で、危険防止のため、やむえず施錠をしている。身体拘束の研修を行い拘束しないケアの大切さを学んでいる。	前面道路は県道の裏道であり、朝夕のラッシュ時には、5m程の幅員の道をかなりのスピードで車が行き交う。そのため玄関は施錠されているが、リビングを出ると、ウッドデッキを通り過ぎ、自由に外へ出られる。スピーチロックが気になる時は、先輩職員がさりげなく接し方を目の前でやって見せ指導している。
7			○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で具体的な例をあげ学び、虐待が見逃されないようにユニット会議でも話し合い、防止に努めている。スピーチロック防止も意識している。	

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方もいる。制度について研修で学び、理解を深めるようにしている。必要な利用者様には制度の説明もしている。		
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて説明をするようにしている。改定時には理解を得れるよう説明している。		
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の様子を家族にお伝えをし、面会時に近況報告をし、疑問や不安がないかを確認するようにしている。	ホーム便りは毎月郵送され家族の安心に繋がっている。管理者は「いつも行事や個々の入居者の近況で一方通行になってはいないか気がかり」と話す。リアルタイムで届くメールなども視野に、家族の生の声を聴く方法を考えている。	
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やスタッフ会議等で意見や提案を伝え、反映させている。	週2回のユニット会議、月一回の全体会議で、介護方法・プラン妥当性が討議されている。各職員の気づきはリーダー・管理者が把握し、その場で、あるいは会議の上で、手技変更等に繋がっている。「ADL低下に伴い時間がかかるようになった」との声に「チームとしてやりくり・対応する方法が提示された。	
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ研修や外部研修の案内がスタッフの目に入る所に掲示してある。 スキルアップ研修を勧めてくれる。 年度末に代表と管理者との面談がある。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の紹介などが掲示してあり、個々に合う研修に参加するよう勧めてくれる。		
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者会議や施設部会に参加し、交流を図っている。他事業所と情報交換をし、互いにサービスの向上に繋げるよう努めている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と時間をかけて話す機会を作り、生活歴の把握、疑問や不安、現在抱えている問題点などを聞きだし、ゆっくり時間をかけ安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に今までの生活歴を聞き、要望や不安を伺っている。入居後の変化や気づいたことを面会時に面会時に伺い良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と利用者様と十分に話し、今何が大事で、必要としている支援は何かを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは共に行き、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りやクリスマス会に参加していただいたり、外食や外出に出かけ家族の絆も大切にしながら本人を支えていく関係作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の訪問がある。入居前からの集まりごとに参加できるよう支援をしている。	ひな祭りの「おこしもの」づくり、七夕はそうめん・運動会は助六を作ったりして、昔なじみの生活づくりに努力している。「娘に手紙を書く」「散歩をする」ことを日課としていた入居者には、職員が手伝っていた。家族と共に、外食・外泊する人も居る。入居前から継続的に参加していた集會に、今も出かける人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置や席は相性を見ながら時々移動をして利用者同士が関われるよう支援している。		

己	自部外	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も相談に応じることを伝えている。お会いした時は近況を伺ったり、情報提供をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしが送れるよう普段の会話から希望や意向を把握するよう努めている。 ご家族にもご本人の思いに添っているか聞いていたりしている。	管理者は「ユニット会議を通じ、入居者の思いをくみ取り、どのように笑顔につなげられるか」、理念を反映したプランにつなげられるよう、会議に力を入れている。そのため、先輩職員だけが発言するのではなく、発言するためにまず、入居者の観察力・見つけた『変化』を言葉にして発表する力の養成に日々取り組んでいる。各ユニットのリーダーがうまくそれを支えてくれている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族より話を聞き、情報収集に努めている。何気ない会話の中からも要望の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の生活リズムやペースを把握し、その人が出切ることを支援しながら元気ある日々を過ごしていただけるよう努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週2回のユニット会議にて話し合い、ケア方法をチームで共通認識し、現状に合う介護計画を作成している。	週2回のユニット会議で職員が個々の入居者の対応につき話し合っている。その結果職員が、会議の決定事項は、なんでそうなるのか具体的に説明できるようになって来た。日常的に全職員がモニタリングを繰り返し、半年ほどでプランを見直している。各ユニットリーダーの「聴き出す力」が支えとなっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の様子や気づきを記入し、スタッフ間で共有できるようにしている。 ユニット会議録や連絡ノートで情報の共有が出来るようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせなじみの場所に外出したり、衣類などの買い物に行ったりとニーズに応じている。	

己	自部外	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物などを通して地域の様子を知り、楽しみを持てるように支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に通えるように支援している。難しくなった時には往診医に変更できるように支援している。	入居前のかかりつけ医が有れば継続することを勧めている。受診が不可能になれば協力医の往診を紹介している。入院対応の協力を得ている医院の他に認知症専門医や訪問歯科にも協力を得ている。訪問看護は契約していない。現在スタッフとして在籍していないが必要時、同法人内の看護師や往診時の看護師の協力を得ている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と連携が取れるようにしている。往診に来ている看護師や医師に相談したりし、連携を図るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後早期退院を目指し、病院関係者と密に連絡を取り合っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期に対する要望を伺い、家族と共に出来ることや不安を取り除けるよう話し合いを重ねている。	入院時に本人、家族にはホームの「看取りのガイドライン」に沿って説明している。運営推進会議でホームで対応できる看取りについての説明を行っている。今年度は看取りは行っていない。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルが電話に近くに置いてある。定期的に緊急対応の話し合いをしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練をしている。	訓練は年2回行っている。消防署員の参加はなく自主点検を行っている。消火器具の扱いや消防署への連絡手順のシュミレーションを行っている。地域住民が少なく協力を得る事が難しい。備蓄は一日分を備えている。

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			声の大きさや言葉使いに気を配り、排泄面では直接的な言葉を使用しないよう心がけている。	入居時に呼称についての希望を本人、家族に確認しその様に対応している。新任者に時々不適切な声掛けがみられるがその都度先輩が訂正している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			日々の何気ない会話から利用者の思いや希望を表していただけるよう働きかけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している			利用者様のその日の心身状態を見ながら、ペースに合わせて散歩をしたり、休息をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			定期的に床屋や美容院が来ている。服装は季節に合わせてご本人に選んでいただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			週に1度利用者様と季節に応じたメニューを考えている。食事の準備や後片付けは一緒に行えるよう工夫している。	既存のメニューを入居者の体調や好みに多少アレンジして調理している。食材は週に三回業者に発注しているが地域住民の野菜の差し入れがある時もある。入居者には配膳やテーブル拭き等のその人に合わせたお手伝いをしてもらっている。週に一回入居者の希望を取り入れたメニューを提供している。食事中はテレビを消し音楽を流している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			栄養バランスの良いメニューを工夫している。嚥下状態に合わせて、食べやすい大きさに切ったりとろみをつけたりしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			毎食後歯磨きできる方はご自分で行っていただき、出来ない方は介助している。訪問歯科を利用している方もみえる。1日おきに義歯の消毒も行っている。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄節句シートを使用して個々のパターンを把握し、リズムに合わせた声かけや誘導をし、自立に向けた支援を行っている。	入居者の状況にあわせて、トイレを使用したり、オムツ着用を選択している。夜間は睡眠状態や身体状況に合わせてオムツ着用する事もあるが、本人のリズムと想いを尊重している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや繊維の多い食品を取り入れるよう工夫し、こまめな水分補給をするように声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後となっているが、個々に合わせたタイミングで入浴してもらえるようにしている。	入浴は一日置きを目安としているが、その時々入居者の希望(時間、順番、介助者等)に合わせていく様努力している。浴槽は家庭用の物で入居者の年齢や介護度の重度化によりシャワーや足浴になる場合もある。季節に合わせて行事湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝が必要な方は居室で休んでいただいている。昼夜逆転にならないよう、日中は活動に参加していただき、生活リズムが崩れないような時間を意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の説明書はカウンターに置いてあり、スタッフが確認できるようになっている。変更時は記録に残し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	犬と猫がおり、利用者様に可愛がってもらっている。散歩や外出で気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、お花見、遠足などの外出をする機会を増やすようにしている。ご家族様にも声掛けをし、一緒に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩にはできるだけ希望に沿うようにしている。外泊や墓参りは家族の付き添いをお願いしている。	

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50				○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力に応じお金を所持し、外出時に使えるよう支援している。		
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もみえる。電話がしたいという方は取り次ぎ出来るように支援もしている。手紙を書いたりされている方もみえる。		
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花を飾ったり、タペストリーを飾ったりしている。毎月利用者様と共に手作りカレンダーを作り、貼っている。廊下には行事の写真などを貼りだしている。	平屋建てでユニットは中庭のベランダとスタッフ室で繋がり玄関は左右に並んでいる。森林公園のそばで敷地内にも緑が多い。各居室三室毎にトイレ、洗面所が散在している。リビングのトイレも前室に洗面所、奥室に便器があり直接見えない様配慮されている。廊下には入居者の写真が多く貼っており、ホームでの生活や行事の様子が解る。犬と猫を飼っており入居者に喜ばれている。	
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座りテレビを観たり、気の合う方同士で談笑したり、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具や馴染みのあるものを置き、過ごしやすいように整えてもらっている。家族の写真などを飾り、ご本人の好む空間作りをしている。	エアコン以外は個人の私物やレンタルで整えてある。タンスや小机、テレビを持ち込んで好みの空間を作っている。昼間時間帯はリビングで過ごせる様に対応している。居室入口には顔写真と名前が掛けられており、のれんを架けている部屋もある。居室とリビングは廊下で繋がっている。	
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、トイレもわかりやすいように矢印を付けたりしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500516		
法人名	有限会社サロット		
事業所名	グループホームさくら・ひまわり		
所在地	愛知県尾張旭市柏井町公園通573-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋市守山区森孝3-1010
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

森林公園の近くと緑豊かな環境で、四季を楽しみながら生活しています。馴染みの行事を生活に取り入れ、毎日出来ることを共に行いながら生活しています。
 今年度中旬よりビタミンB1、B12葉酸を取り入れる献立に変更中です。白米から胚芽米に変更するなど、出来ることから始めています。元気に楽しく過ごしていただくために出来ることは何かをスタッフと共に考え、柔軟な対応で取り組めるようにしています。
 例年秋に遠足と称し、外出支援を行って来ましたが、今年度は春に名古屋港水族館、秋に南知多ビーチランド、冬になばなの里のイルミネーションを見に出かけた。「今なら出来ること」「まだできること」にこだわったケアをスタッフと模索しながらケアをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営								
1		(1)		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「この街で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」を理念とし、休憩室に掲示してある。職員全員が共有できるようにしている。			
2		(2)		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園の園児や、ハーモニカ、コーラスのボランティアが来訪し、交流している。毎日の散歩を通じて近所の方に挨拶をしたり、交流を図っている。			
3				○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症について話し合ったりしている。			
4		(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年5回推進会議を行っている。利用者のご家族様、市役所の方に参加していただき、意見を聞いている。			
5		(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加していただき、相談をしている。			
6		(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の掲示を休憩室に貼ってある。防犯の為玄関は施錠しているが、その他は鍵をかけず、ベランダやテラスに出れるようになっている。			
7				○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修等で学び、スピーチロックなど意識している。			

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方もみえる。制度について研修などで学び、理解に努めている。		
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明をし、理解していただくようにしている。不安や疑問点などは説明を重ねて理解が得られるようにしている。		
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に見えた時に日頃の様子を話し、意見などを頂いた時は反映できるようにしている。		
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週2回のユニット会議と月1回のスタッフ会議があり、意見や提案をし、話し合いをしている。		
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修を勧めてくれたり、行きたい研修に行かせてくれる。年度末に面談があり、意見を伝える機会がある。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報やスキルアップになる本が休憩室にある。資格習得などの支援もしている。		
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や施設部会に参加し、他事業者と交流している。施設部会の研修や交換職場体験などを通じ交流が出来るようにしている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時などに面談し、利用者様やご家族の要望に応えられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後の変化などを面会時に話し、不安や要望を聞き、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様からの要望を伺い、必要な支援は何かを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることを把握し、出来ることを行っていたりしながら、共に出来ることを行うような支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り、クリスマス会、忘年会などの行事に参加していただいている。外出や外泊などご家族様と過ごす時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や、親戚の方など面会に来てくださっている。入居前からのかかりつけ医に継続してかかれるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を見ながらテーブルや席の配置を考え、移動したりしている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に面会に行ったりしている。近所でお会いした時など、声を掛けて近況を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話などから本人の希望や意向をくみ取る様努めている。ご自分の想いを表現することが難しくなってきた方は、表情などから汲み取る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や趣味などお話を聞いて把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜逆転しない範囲で本人の過ごしやすいリズムで横になったり、ゆっくりテレビを観たり、希望に添えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に2回ユニット会議で職員同士が個々の利用者様の対応について話し合いをしている。本人、ご家族様の意向を反映した介護計画になるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別ケース記録に残し、会議録や連絡ノートなどで情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	花見や遠足などの機会を増やし、ご本人の興味やニーズに応えられるよう、柔軟な対応を心がけている。		

己	部	外	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの森林公園へ散歩をしたり、買い物に出かけるなど、楽しみを持てるようにしている。		
30	(11)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続して通えるよう支援している。受診が困難になってきた方へは往診医への移行などの相談に乗り、適切な医療が受けれるようにしている。		
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診に付き添ってきている看護師に日々の様子などを報告し、相談になってもらっている。法人の看護師も定期的に様子を見に来てもらい、相談に乗ってもらえるようにしている。		
32			○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院を目指し、病院関係者と連絡を取り合っている。		
33	(12)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時からターミナル時の要望や、看取りに対してのお気持ちを伺うようにしている。ご本人の体調の変化に応じてご家族と話し合いをし、その時のベストは何かを共に考えるようにしている。		
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話の近くに緊急対応マニュアルが置いてある。研修などでAEDの使い方や心臓マッサージの仕方などを学んでいる。		
35	(13)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練をし、緊急時の対応の確認や消化器の位置の確認、消防署への連絡の仕方などを話し合っている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや声の大きさに注意し、排泄面は直接的な表現を避けるなど、プライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から本人の思いを汲み取れるように心がけている。話しやすい関係作りも意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、横になっていただいたり、散歩に出かけられるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服を選んで着ていただいている。訪問美容が来て、毛染めしたい方はしてもらったり、本人らしいおしゃれが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を作り、後片付けも出来る範囲行っていたりできるようにしている。週に1度メニューを一緒に考え、季節に合ったものや、好みのものを食べれるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事賞を記録に残している。10時と15時のお茶の時間を設けるほか、いつでも飲めるようお茶とスポーツドリンクがカウンターに置いてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分でできる方は歯磨きをしている。出来ない所は介助している。訪問歯科にさせていただき、定期的に診ていただいている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使い、排泄リズムの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れ、ヨーグルトや、牛乳を飲んでいただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴を楽しんでいただけるよう午後から長めに時間を取っている。しょうぶ湯やゆず湯など、季節に合わせて楽しんで頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝が必要な方には居室で休んでいただくが、夜の睡眠の妨げにならないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カウンターに個人の薬の説明が置いてあり、量や種類を把握するようにしている。薬の変更があった時は、薬剤師が副作用や注意点などを記入してくれるので、職員も把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベントやアクティビティを通して楽しく過ごしていただけるように支援している。毎日の散歩を楽しみにしている利用者様もいる。ホームで飼っている犬や猫を可愛がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩に出かけている。名古屋港水族館やなばなの里、南知多ビーチランドにも出かけ、外出先で地域の方の協力を得ることもある。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50				○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が管理できる分を持っている方もみえる。外出時好きな物を買うように支援している。		
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もみえ、ご家族と話をしたりしている方もみえる。		
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月手作りカレンダーを飾り、季節を感じていただけるような環境作りを心がけている。玄関には季節の花を植え、中庭に畑を作るなど、居心地のいい環境作りを心がけている。		
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置いたり、気の合った利用者様同士話ができるようにしている。		
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具を持ってきていただいたり、ご本人の好む飾りを置くなど、居心地がよく過ごせるように整えてもらっている。		
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどわかりやすく張り紙をするなどをし、場所が分かりやすいようにしている。居室の前に顔写真付きの表札を掛けている。		